

実践ノート

保育者養成短期大学の 卒業までの学びを支える看図アプローチ（Ⅰ） —メルヘンスケープ法の体験から—

渡辺 聡¹⁾

WATANABE Satoshi

キーワード：看図アプローチ・メルヘンスケープ法・創造の楽しさ・共有・取捨選択

Ⅰ. はじめに

本研究は、筆者渡辺が担当するゼミ学生たち（以降、学生たちと表記）が、卒業までの学びを充実するために行った記録である。メルヘンスケープ法は、鹿内（2010）が中心となり開発した看図作文の授業実践法のひとつである。「看図」は現在、作文指導にとどまらず、様々な研究実践に取り入れられ、看図アプローチという考え方でよく知られている。

看図アプローチ基盤型授業では、授業目的に沿って工夫された絵図・写真・動画等が使用される。看図アプローチの手法を授業に取り入れると、学習者の好奇心を喚起し、積極的な活動が展開される。本研究では、渡辺（2022）の報告や実施した際の反省に留意し、鹿内及び石田から提供を受けた教材を使用してメルヘンスケープ法の実践をした。学生たちは、メルヘンスケープ法に沿って物語を創作していく。

学生たちは、保育者の資格を得るために、2年間の学修期間で多くの現場実習を行う。実習の中には、一日の保育活動の一部だけを担う部分実習や一日全ての保育活動を担う全日実習（責任実習）がある。実習を終えた学生たちからは、現場体験の満足感と同時に保育活動への不安感をよく

聞く。その一つが読み聞かせに関する内容である。年齢・目的にあった絵本や紙芝居の選定をすること、読み聞かせ時の子どもの対応が難しかったということなどがそれにあたる。自己の実習を振り返った学生たちには、子どもの興味を継続させられなかったことへの反省の思いがある。

この思いに応えられる方法として、学生たちに看図アプローチ基盤型授業のメルヘンスケープ法を試みることにした。メルヘンスケープ法には、呈示された状況に応じて自分の物語を創り上げていく楽しみがあり、積極的な活動が展開されるからである。このメルヘンスケープ法の体験は、学生たちに創造の楽しさを感じさせる。そして、今度は自身が絵本や紙芝居の読み手になった時、子どもがお話に没入する読み聞かせを行うことができると考えた。また、この経験が後に報告する、紙芝居づくりとその読み聞かせにポジティブな効果をもたらすことを期待した。

本研究に学習者として参加した1年生の学生たちは、看図アプローチ基盤型の授業を、筆者の担当した他の授業で1回、2年生の学生たちは2回程度体験している。2年生の学生たちは、卒業研究のテーマを決める4月当初、学生同士のゼミ検討会で以下のような話し合いをした。

1) 羽陽学園短期大学

- ①実習等で卒業研究に関する資料を集めることができる面白い。
- ②卒業しても現場の保育活動に活用ができる嬉しい。
- ③実際に子どもたちと活動することができたら嬉しい。
- ④絵本または紙芝居風にして、言語に関する活動がやりたい。
- ⑤幼保小連携を意識して、個別最適な学びに発展する活動をしてみたい。

以上の学生たちの希望を受けて、次の二つの卒業研究計画を立てて実践することとした。

一つは、メルヘンスケープ法を用いた物語創作体験である。メルヘンスケープ法は、卒業研究の実施時期にも合っている題材である。また、学生たちが幼児教育で個別最適な学びについて学ぶのに、看図アプローチは最適である。それは、看図アプローチが、工夫されたビジュアルコンテンツと発問により、個人の発想を広げるからである。そして、その発想が協同して学ぶことを促すとともに、個人の最適な学びを可能にするのである。他者との関わりの中で自分が満足する最適解を求めることは、幼児教育を担当する保育者自身にも必要な資質である。そのために学生時の経験値を上げることは有益なことである。

もう一つの研究計画は、こども園における読み聞かせを行うことである。学生たちは、卒業後即戦力として子どもたちの教育・保育にあたらなければならない。その際に④で考えた絵本や紙芝居づくりと⑤で考えた個別最適な学びを意識した取組の経験は、就職後、大きな力になるものと考えられる。幼児教育において、子ども一人一人の思いを大切にしたい保育活動は、基本である。

本研究におけるメルヘンスケープ法の体験は、卒業研究に向けた計画全体の前半部分にあたる。本稿ではこの部分の活動について報告する。後半部分については次稿にて報告する。

Ⅱ．メルヘンスケープ法による物語づくり

実施手順は以下のようであった。

Ⅱ－１ 目的

メルヘンスケープ法を体験することにより、学生の状況対応力と発想を広げる力を伸ばす。

Ⅱ－２ 実施年月日

2025年11月4日～2025年12月9日
(1年生と2年生は、別々の日に実施している。2年生は、地域派遣の保育実習日程の関係上、本活動は次稿で報告予定の紙芝居活動と並行して実施した。本稿では本活動部分のみ報告する。)

Ⅱ－３ 授業者・学習者・倫理的配慮

授業者は筆者である。本授業は、卒業研究ゼミナールの中で行われた。学習者は1年生3名、2年生4名である。学生たちは幼稚園教諭や保育教諭または保育士として、保育・介護関連施設に就職する希望をもっている。

メルヘンスケープの作成及びお話づくりは、筆者の研究室で行われ、リラックスした中で実施された。取組は、2年生の卒業研究の一つとして位置づけられる。卒業研究テーマは、「読み聞かせにおける子どもの選択と個別化に焦点を当てた取組」であった。そのため、メルヘンスケープの学びは、研究計画後半の紙芝居活動の作話バリエーションが広がることを期待して行われた。また、1年生は、次年度、自分たちが卒業研究で設定するテーマや内容を探る気持ちで参加した。

学生たちには、事前に承諾書を記入提出してもらった。本授業で記入したワークシートや創作文は、研究会・学会・HP・論文等で紹介することに承諾を得ており、倫理的配慮を施すことに努めて、発表することとした。また、活動中の記録写真には、必要な部分に加工を施し個人情報に配慮した。学生の記述部分については明らかな誤字・脱字のみ修正している。

II-4 実施方法及び内容

II-4-1 活用した教材

メルヘンスケープ法 (2010) は、全国看図アプローチ研究会会長鹿内信善と研究会専属アートスタッフ石田ゆきが看図作文授業用に開発した授業モデルである。筆者は 2021 年に本授業モデルの活用を許諾され、書く力を育てる目的で授業を行っている (渡辺 2022)。本授業では石田ゆき提供のパワーポイントを使用してメルヘンスケープ体験授業を行った。以下に呈示するパワーポイントは全て石田から提供を受けたものである。

II-4-2 授業の流れ

以下に、使用したパワーポイントを示しながら、授業の流れを説明する。

【ステップ1】授業の準備

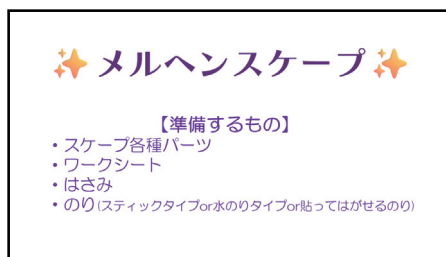


図1 準備の説明スライド

スケープ等の材料も石田から提供を受け、使用した。堅苦しい雰囲気にならないよう配慮して、メルヘンスケープを作成しながら物語づくりを進めていくことを説明した。

ワークシートは、渡辺 (2022) で使用したものを活用した。ワークシートはストーリー展開に合わせて3種類用意した。学生たちに記入を求めた質問は、以下の3つである。

- 自分がつくった風景を見て、どんな気持ちになりますか？ 今、感じていることを書きましょう。
- サンタさんは、どんなことに困っているのでしょうか？ また、どうしてそうってしまったのでしょうか？
- 「援助者」の雪だるまさんが出してくれた解決方法は？

それぞれのワークシート記入後には、その内容を共有した。詳細については後掲の表1～3で紹介する。

【ステップ2】スケープづくりとパーツづくり

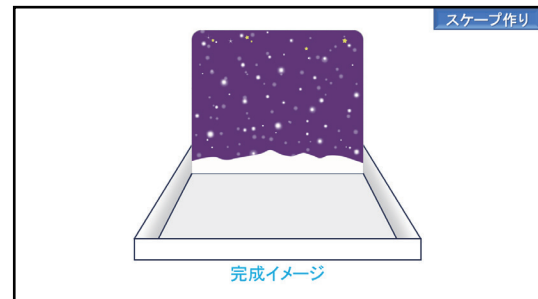


図2 完成イメージスライド

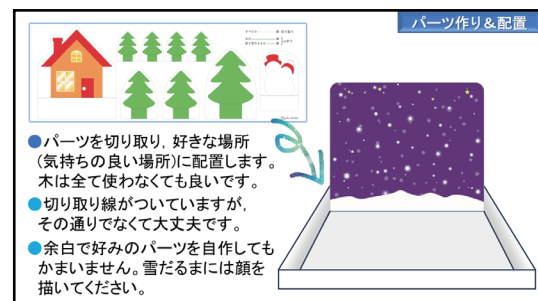


図3 使用パーツの作成と配置スライド

メルヘンスケープ法では、学生たちが使用するスケープや必要なパーツを作成・配置していく作業と同時進行でお話を考えていく。そのため最初に、学生たちはスライド (図2・3) を見ながら基本となるスケープと使用パーツの作成を行った。

【ステップ3】“感じ”の作文

スケープづくりとパーツの貼り付けを終了したら、図4の指示をする。

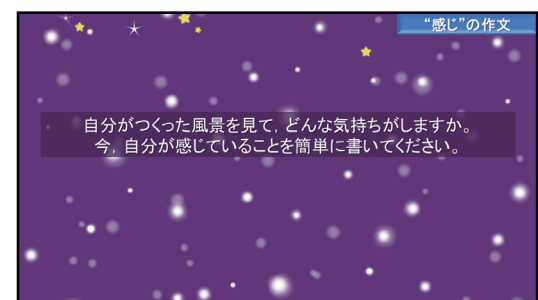


図4 “感じ”の作文 (心の風景) 指示スライド

ワークシートの記入内容は、表1の通りである。学生の記述のまま載せてある。なお、先述したように1年生と2年生は別日程で授業を行っているが、表ではひとつにまとめている。学生ABCは1年生であり、学生DEFGは2年生である。

記述内容には、これ以降の部分的なお話づくりや最終的な物語づくりで活用されているものもみられた。学生はそれぞれ、他の学生の意見を聞き、自分が気づかなかった内容を記述している。スケープとパーツづくりをしながら、ワクワク^{a)}、雪だるまの製作意欲^{b)}、かわいさ^{c)}、住みたい^{d)}、温かさ^{e)}、あたたかい^{f)}等の気持ちを共有した。

【ステップ4】“問題を抱えたサンタさん”の配置

次にスライド（図5）の指示で、左足に靴をつけていないサンタクロースを「ある人」として登場させる（少しもったいぶって呈示する）。



図5 “問題を抱えたサンタさん”のスライド

表1 自分の「心の風景」とメンバーの「いいな一」と思ったところ

学生	自分の「心の風景」メモ	友達の「いいな一」と思ったところ
A	・ The 冬って感じがする。 ・ <u>ワクワク</u>^{a)}した気持ちになる ・ クリスマス、もう少しで来るんだ～と思う。	・ 雪だるま作りたい。 ・ 1年の終わりになってきた。 ・ 雪だるまを見てホッコリ。
B	・ クリスマスの季節が近づいてきて、<u>ワクワク</u>^{a)}する気持ち。 ・ 自分も<u>雪ダルマ</u>を早く作りたい^{b)}気持ちになった。	・ 自分もワクワクする気持ちになった。 ・ 1年のおわりの季節を感じられる所。
C	・ 子どもの時のような気持ち ・ ドキドキ<u>ワクワク</u>^{a)}	・ クリスマスが、来るんだ ・ 早く、冬になんないか
D	・ <u>かわいい</u>^{c)} ・ <u>住んでみたい</u>^{d)} ・ <u>温かい</u>^{e)}気持ち ・ 自分で作ったという愛着	・ たき火→温かい、落ち着く ・ 温かい気持ち→雪だるまがくっついてたり ・ 寒そう
E	・ 12.24に世界の子どもたちへプレゼントを届けに行く	未記入
F	・ <u>あたたかい</u>^{f)}気持ち、クリスマス楽しみ	・ 物語の内容が可愛いと思った ・ 自分と作った物の位置が違っていて面白い
G	・ 寒そう	・ たき火→温かい、落ち着く ・ あたたかい感じ ・ 家 住んでみたい

このサンタクロースを、学生たちが作成したスケープの中の任意の場所に配置するよう指示を出す。そして、サンタクロースの配置が終わった頃に、次のような質問をした。

- ・サンタクロースは、どんなことに困っているか。
- ・どうして、そうってしまったのか。

以上の内容に関して、サンタクロースの様子から今の気持ちを想像して短い物語（メモ・箇条書き可）を考える。学生が記入した内容を表2に示す。

表2 困っているサンタクロースとその理由

学生	困っている内容・理由	友達とのお話の共有
A	・ <u>黒い靴が脱げて</u>^{a)}しまった。雪に埋もれた？ ・ プレゼントをこっそり届けに行くことが出来るか... <u>(不安)</u>^{b)} 寒い？ きんちょう？！	・ くつが無くて転ぶ。すべっちゃう。 ・ くつがぬげちゃった... ・ どうしよう。寒い。 ・ プレゼント届けられるかな？ ・ きんちょうするなあ。 ・ えんとつ登ってみるか！！ ・ 頑張るぞー！
B	・ 子どもにバレちゃったらどうしよう困っていて、なかなか入れなくなってしまった。 ・ <u>くつがぬげてしまって</u>^{c)}やばいと思ってしまう、屋根から落ちてしまわないか不安になった。さむくて表情もかたくなってしまい、バレないように<u>プレゼントを届けられるか</u>^{d)}心配している様子。	・ くつがなくて、やねからおちてしまったらどうしようと思った事がすごい。 ・ 表情を見て不安だと感じとっていた。
C	・ おっちょこちょいだから ・ 参った、どうしようかなー	・ バレたらどうしよう ・ こっそり、プレゼントを届けに行けるかな
D	・ くつがぬげて歩けない、足が冷たい→<u>足が雪にうもれて、足を抜いたら靴だけ雪の中にうまった</u>^{e)}から。	・ 急いでプレゼントを届けたくて、歩きまわっていたら、ソリから靴が落ちて足が冷たくて歩けない。プレゼントをわたしにいこうとしたら、雪に靴がうもれてなくした。 ・ たき火で靴が燃えて、プレゼントを渡せなくなった。最後のプレゼントが火に入って、とろうとしたら靴がもえちゃって、困ってる。

E	・サンタの片方の靴が脱げてしまう。でもトナカイはとまらず世界をかけるので、サンタは片方の足がつめたすぎて、歩けなくて困っている。	未記入
F	・水に濡れてしまってプレゼントを届けられなくて困っている^{f)}。 ・靴などを乾かすこと	・雪にハマってしまったところがいいと思った。
G	・雪に埋もれて^{g)}しまった。 ・靴がなくなった^{h)}。 ・プレゼントを配りに。	・プレゼントを空からおとして困っている。 ・あるいている時に雪に埋もれた。 ・たき火、くつ乾かしているときにもえた。プレゼントをもやした→くつももやした。

サンタクロースの「困り」の内容や理由は多様である。学生たちは自分の考えを記入後、他者と内容を共有し、さらにイメージを広げていく。学生A・Bの黒い靴が脱げて^{a)}、不安^{b)}、くつがぬげてしまって^{c)}、プレゼントを届けられるか^{d)}発言に対しては、学生らは互いに同様の言葉を遣い共感を示している。また、雪にうもれて、足を抜いたら靴だけ雪の中にうまった^{e)}では、学生Fが「雪にハマってしまったところ」と表記し、お互いに想像の共感と幅を広げている。雪に埋もれて^{g)}、靴がなくなった^{h)}も同様に、靴がなくなった理由について他の学生と意見を共有する記述となっている。さらに、水に濡れてしまってプレゼントを届けられなくて困っている^{f)}という学生Fの発想に対して、学生Dと学生Gが「靴が燃える」という考え方をワークシートに共有している。この考えの共有は、発想者である学生Fの創作文に反映されることになる。

【ステップ5】“援助者”の登場と問題の解決

次に、この状況を打開するようなストーリー展開をしていく。「援助者」の登場である。援助者が登場する際に呈示したスライドを掲載する（図6、図7）。

学生たちは、配られた雪だるまを、援助者としてスケープの中に配置した。その雪だるまがもっている力によって、サンタクロースが抱えた問題を解決する。学生たちには、その解決方法を考えるよう指示を与えた。学生たちの解決方法は、次のようなものであった（表3、次頁掲載）。

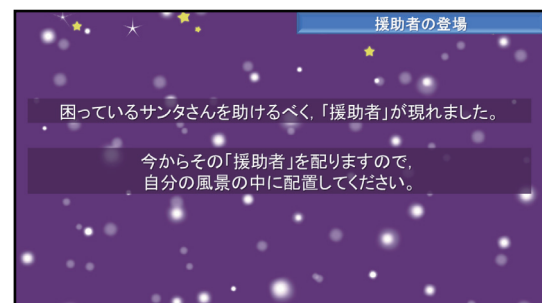


図6 援助者の配付と指示スライド

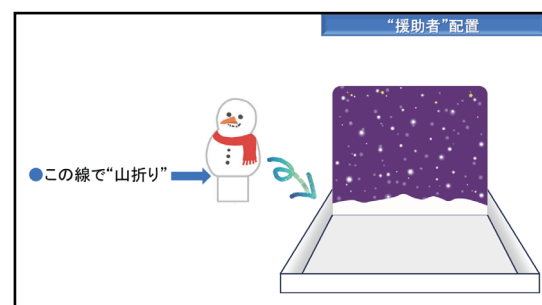


図7 配置方法の呈示スライド

表3 “援助者”が出した解決方法

学生	雪だるまさんの解決方法	友達とのお話の共有
A	・ くつを届けてくれる。(貸してくれたら、別の物の代用) ・ サンタさんの不安なことを聞いて、良い考えを教えてくれる。(背中を押してくれる) ・ 一緒についてきてくれる。	・ すべらないくつに代用する。 ・ 木陰からひょっこり。良い！！ ・ マフラーのお守り！！→自分の物を相手に。
B	・ 雪だるまさんパワーで、サンタさんの新しいくつをだしてもらう。 ・ ゆきだるまさんが「大丈夫」といって、<u>お守り代わりにマフラー^{a)}</u>をサンタさんに巻いてあげる。 ・ <u>マフラーのお守り^{a)}</u>をもらって、心が温かくなったサンタさんは勇気を出して、プレゼントをおきにいけた。	・ お話をきいてくれるところが良い。 ・ 助け合いをしている。 ・ まほうを使っていくのがおもしろい。
C	・ 雪だるまさんが魔法使った。 ・ 子どもたちにバレないように、サンタサンと協力する。	・ 一緒についてきてくれる。 ・ 雪だるまさんが大丈夫といっていること。
D	・ <u>サンタが空を飛べるように^{b)}</u>した。 ・ <u>自分が靴に^{c)}</u>なった。 ・ 靴をはかなくても足が冷たくなならないように<u>魔法をかけた^{d)}</u>。	・ 何にでも変身できる雪だるま→靴になる。 ・ マフラーで靴下、にんじんで靴をつなげて靴にした。 ・ 雪でカイロ付きの靴をつくってあげた。→雪で何でも作れる雪だるま。
E	・ 左のくつを落として困っているサンタさんに対し、<u>魔法を使って^{d)}</u>くつを作ってくれた。	・ くつの中がとっても温くなる不思議なくつ。
F	・ <u>ニンジン</u>を靴に、<u>マフラー</u>を靴下^{e)}にして渡した。	・ 魔法を使うところがいいと思った。 ・ 魔法を使って靴下を作ってあげるところが可愛い。
G	・ <u>何でも変身できる雪だるまが靴に^{f)}</u>なってくれる。	・ サンタが空をとべるように、雪だるまがくつに、つめたくない魔法。 ・ 靴下をマフラー ・ ニンジンでくつ ・ ゆきをつかって何でもつくれる。

学生たちの発想をみると、問題の解決のために「魔法^{d)}」「変身」など何らかの工夫をして解決するものと、勇氣など心情的な後押しをもらって解決するものがみられる。お話の共有欄には、自分にはなかった種類の解決法を書き留めてある。このような別視点の発想が創作文に生かされていくことになる。学生 A は、お守り代わりにマフラー^{a)}という学生 B の発想を、後掲創作文の中に問題解決の方法として挿入している。また、サンタが空を飛べるように^{b)}、自分が靴に^{c)}、ニンジン^{e)}を靴に、マフラーを靴下^{e)}、何でも変身できる雪だるまが靴に^{f)}などの部分は、お話の共有として他の学生のメモに記述がみられる。後掲創作文では、必ずしも共有した内容が反映されているわけではない。しかし、創作のヒントになる情報であったことは間違いなさだろう。なぜなら、学生たちは思考内容を共有・比較することで、最終的にどんな情報を物語に盛り込むか取捨選択して考えていくことになるからである。創作文を書く段階で、学生たちはまず自分の想像に沿って考え、自分のイメージに活用可能な情報を挿入していくことになるのである。

【ステップ6】“解決サンタさん”の登場

最後に、図8・図9のスライドによって解決後のサンタクロースと、全てを解決する「星」を順に呈示・配付する。【ステップ5】の“援助者”の登場と問題の解決で、学生たちは、「魔法」や「変身」や何らかの工夫、または心情的な後押しをもらって問題を解決していくことを考えていた。サンタクロースが履かせてもらった金色の長靴（図8）は、解決方法の一つの象徴として幅広く想像を沸き立たせるものである。授業では、創作文の完成に向けて、続けて次のような解決提案をした（図9）。物語の完成に向けて、最後に指示した内容は、以下の二つである。

いろいろなことを解決してくれる「星」の力を使って、おはなしをまとめてください。

キャラクターのセリフなども入れて書いてください。ハッピーエンドにしてください。

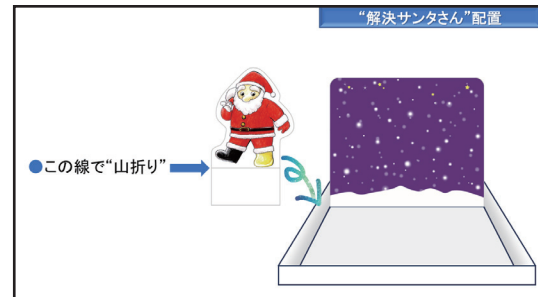


図8 解決サンタクローススライド

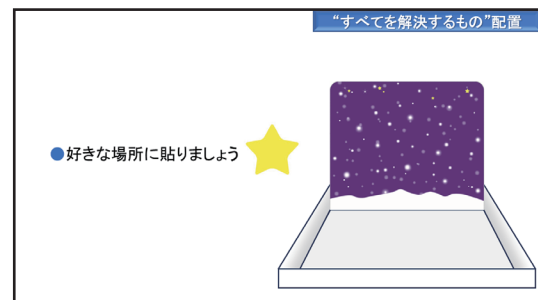


図9 “全てを解決するもの”スライド

学生たちは、提案された「星」をスケープに貼り、星の利用も視野に入れながらお話をまとめていった。完成したスケープと、創作された物語を以下に示す（下線は筆者によるもの）。

創作文（学生 A）



【題名：くつを無くしたサンタ】

クリスマスの時期が近づいてきました。雪が

サンサンと降っています。可愛い顔のゆきお君とゆき子ちゃんのゆきだるま 2 人もとても楽しそうに笑っています。そんなある日、困った顔をしたサンタさんがやってきました。そのサンタさんの様子を見てみると何か困ってそうです。ゆきお君とゆき子ちゃんがお話を聞いてみるとあら大変！！ゆきに埋もれて右足のくつがぬげちゃったみたい。それにお顔から涙が出てきそうなくらい悲しいお顔をしているのが分かります。そんな困っているところに援助者のゆきだるまさんが来てくれました。ゆきだるまさんはサンタさんの横に来て、お話を聞いてくれました。お話を聞いたゆきだるまさんは解決策を 4 こ考えてくれました。①くつを届けてあげる。②不安を聞いて良い考えを教える。③すべらないくつをプレゼント！！④ゆきだるまさんのあったかい赤いマフラーをお守りとする。この考えを聞いたサンタさんはどれかの解決策をもらい頑張ってみようと決意しました！！その時、金色のピカピカ光った丈夫なブーツをはいて、ニコニコ笑顔になったサンタさんがやってきました。次は皆のもとに沢山のプレゼントを届けられそう！！と思った所に流れ星がやってきました。今日は色々あったけど流れ星がお家にくっついて HAPPY な気持ちになりました。

創作文（学生 B）



【題名：がんばれサンタさん】

今日はみんな大好きなクリスマスの日です。みんなはクリスマスといえばどんなイメージかな？トナカイのトナくんはとってもワクワクしています。雪だるまの双子はいつも外で遊んで

います。いよいよ夜になりました。サンタさんはなんだか表情がとても不安そうです。

（サンタさん）「こわいよー。くる途中でくつを 1 つおとしてしまった…。これでは、やねにのぼるのもひとくろうだし、とってもこわい。」とサンタさんは言いました。

（サンタさん）「くつがもうかたほうぬげてしまったら、どうしよう…」とサンタさんは不安がいっぱいでした。

そこに、ゆきだるまのゆきちゃんがあらわれました。ゆきちゃんは人を助けるのがとくいです。ゆきちゃんは不安そうなサンタさんを助けるために、サンタさんにまほうをかけました。ゆきちゃんのパワーで、サンタさんの新しいくつができました。ゆきちゃんが首につけていたマフラーをサンタさんにわたしました。「サンタさん大丈夫」と言い、お守り代わりにマフラーを巻いてあげました。マフラーのお守りをもらって、心が温かくなったサンタさんは、勇気をだしてプレゼントをわたしにきました。町の子どもたち全員にぶじ、プレゼントが届きました。もちろん、トナくんにも雪だるまの双子にもプレゼントが届きました。サンタさんはとてもえがおになりました。

そこに、木の上に星がおちてきました。くらかった空がいきなり明るくなりました。

サンタさんと雪だるまは、一緒にクリスマスパーティーをひらきました。

今日は、とても長い 1 日でしたね。

創作文（学生 C）



【題名：おちょこちよいのサンタクロース】

少しおちょこちよいのサンタクロースは、世界中の子どもたちに幸せを届けるために、トナカイたちと一緒に毎日プレゼントの準備をしています。クリスマスが近づくと、子どもたちから届いた手紙を読んで、一人ひとりの願いを確かめながらプレゼントを用意します！そしてクリスマスの夜になると、サンタは大きなそりにたくさんのプレゼントを積んで、トナカイたちと一緒に大きな夜空に飛び立ちました。すると、おちょこちよいのサンタサン。屋根を登っている最中に何回も何回も転んでしまいました。サンタサンの大切な靴を落としてしまいました。すると、玄関にいた雪だるまはサンタサンに、「僕たちが手伝ってあげるよ！ちんぷいぷいのぷーい！」サンタサンはピューンと飛ばされて一気に屋根に登ることができました！「やっと子どもたちにプレゼントを届けることができるぞ」とサンタサンは嬉しそうにいいました。

そこからは、サンタサンは世界中の家を回り、楽しみにしている子どもたちのためにプレゼントを届けていきます。次の日、子どもたちは目を覚ましてプレゼントが家にあると大喜びです。その笑顔を観ることがサンタサンにとっての幸せなことなのです。そして、サンタサンは、たくさんの人に幸せを届けながら、また来年のクリスマスに向けて準備を始めるのです。みんなのところにもサンタサンが来るといいですね！

創作文（学生D）



【題名：クリスマスのハプニング】

ある山の中に、暖かい気持ちになる可愛いお家がありました。

今日は、クリスマス。お家に住んでいる子どもたちは、サンタさんからプレゼントをもらえるのをワクワクして待っていました。空も真っ暗になって、全員が寝静まった夜、プレゼントを抱えたサンタさんが歩いてやってきました。

サンタさんがお家に入ろうとしたその時、「わ！」とサンタさんの足が雪にはまってしまいました。「どうしよう、早くプレゼントを配らないと！」と急いで足を抜いたサンタさん。足が抜けてほっとしましたが、その足にはなんと靴がありませんでした。靴が雪の中にうもれてしまったようです。

靴が無くなってしまったサンタさんは、「足がつめたくて、歩けない。これじゃあプレゼントを渡しに行けないよ」と困ってしまいました。

するとそこへ、困っているサンタさんのことを心配した雪だるまが来ました。

「大丈夫？サンタさん」と雪だるまがしゃべるとサンタさんはびっくり。「君しゃべれるの？」「うん！ボクはねすごい力を持っているんだ！だからサンタさんのことも助けてあげる！」「ほんとに？」とサンタさんは雪だるまの力を信じていませんでしたが、プレゼントを配らないと子どもたちが悲しんでしまうので、雪だるまの言うことを聞くことにしました。

「じゃあいくよ！それ！」と雪だるまが声を出すと、何とびっくり、サンタさんの足は靴をはかなくてもつめたく感じなくなりました。サンタさんはおどろいて「すごいぞ！つめたくなじゃないか」と走り回りました。

そこへ、はだしではしゃいでいるサンタさんを見かねて、何でも解決してくれる星がやってきました。

「サンタさん、はだしではしゃいでいると、トナカイとかがびっくりするだろう！しかたないから、私と同じ色の靴をプレゼントしよう」と星がサンタに魔法をかけました。

魔法をかけられたサンタさんは、「やっぱり靴があるとあたたかいし、安心するな」と温かい気持ちになりました。プレゼントを配り終えたサンタさんは、助けてくれた雪だるまと星と一緒にクリスマスパーティーをしました。

おしまい

創作文（学生E）



【題名：サンタがくれた不思議な星】

12月24日クリスマスイブの夜です。サンタクロースは、世界中の子どもたちにプレゼントを届けるためにおもちゃをいっぱいにとって準備していました。「よい子にはいっぱい届けるぞー！」相棒のトナカイと一緒に旅立ちました。サンタクロースの出番です。

サンタさんはたくさんのおもちゃたちにプレゼントを届けるためにせっせかせっせかととても速いスピードで届けていきました。その時です。焦りすぎたサンタさんはそりに乗ると同時に片方のくつがぬげてしまいました。

「あー！わしのくつがー！！トナカイくん一回止まっておくれ」

トナカイに止まるようにいったが聞きもしません。トナカイは夢中で次のお家に行くために夜の空をかけ回りしました。困ったサンタさん。足がとっても冷たいです。

次のお家に着きました。なんだかとても静かなところ。「ひえ～！！冷たい！！でもプレゼントを届けないと！行ってくるよトナカイくん」

サンタさんはがんばってお家まで歩こうとし

ましたが片方の足がつめたすぎて動けなくなっていました。「どうしよう... 困ったな、もうちょっとなのに...」サンタさんは困ってしまい、立ち止まっていました。すると... 後から「サンタさん！お疲れですか？」と声が聞こえ振り向いてみるとこの町の有名な魔法使いのユキ・ダルマンがいました。「あなたはだれ？」「私は雪を使って何でも作ってしまうすごい力を持った魔法使いのユキ・ダルマンと申します！！」サンタさんは突然のできごとで驚きました。「プレゼントを届けないといけなのに左のくつを落としてしまって動けないんだ。」「なら私におまかせあれ！」するとユキ・ダルマンはキラキラ魔法を使って金ぴかのくつをつくってあげました。「わー！！！」サンタさんはこれまた驚いてびっくり！「あったかい！ユキ・ダルマン、ありがとう！」金ぴかのくつの中はとても温かくてサンタさんの気持ちも温かくなりました。

「助けてくれたお礼にクリスマスプレゼントをあげるよ。メリークリスマス！」「やったー！！ありがとうサンタさん！」ユキ・ダルマンはプレゼントをもらうのは初めてでとても嬉しそうです。プレゼントを開けてみることにしました。すると中から一つの星がでてきました。「なんだろうこれは...」星が舞い上がってユキ・ダルマンを包み込みました。次の瞬間、帽子がでてきて人間の魔法使いに変身したのです！サンタさんは世界中に幸せを届けるやさしい魔法使いになってほしいと願いを込めてこの星をユキ・ダルマンにプレゼントしたのです。「人間になれた！！嬉しいな！サンタさん、本当にありがとう！」「これからは素敵な魔法を使って世界中を幸せにしてくれ」「まかせて下さい！」サンタさんとユキ・ダルマンは強い絆で結ばれていました。

サンタさんはソリにのり、子どもたちにプレゼントを届けるためにまた夜空をかけ回っていききました。

創作文（学生F）



【題名：サンタさんとお星様の靴】

ある森の奥の奥、サンタさんが住む小さくて暖かいお家がありました。もうすぐクリスマス、サンタさんは大忙しでプレゼントを用意しています。「よっこらせどっこいせ」サンタさんが町の方からプレゼントを持って帰ってきたとき「ジャボーン」片方の靴が池の中にはまってしまいました。「さいあくだ～明日がクリスマスなのに」。そう今日はクリスマスイブ。これだと冷たくて歩けません。何とかがんばって帰ってきたサンタさん。双子の雪だるまちゃんから声をかけられました。「まあサンタさん靴ぬげちゃったの?」「そうなんだよ～どうすればいいんだ～!」悩んでいると雪だるまちゃんがいいました。「たき火の近くで乾かせばいいんじゃない?」「そうだね!! しょう!!」さっそくサンタさんは木の枝とマッチを使ってたき火を作りました。そして木の枝に靴をひっかけて近くにおきました。

「これで大丈夫だ!! 早く乾くといいな」サンタさんはうれしくなってきたき火の前に座ってココアを飲みました。するとつかれたのでしょう。だんだんウトウト…。サンタさんは寝てしまいました。

「サンタさん!! サンタさん!!」

「うええ～?」目をこすりながら起きると…なんと靴が黒こげになってしまいました!! 寝ている間に燃えてしまったようです。

「大丈夫? 私たちも寝てましたから…」雪だるまちゃんたちが悲しそうにしています。

「君たちのせいではない!! だがどうしたものか。もうクリスマスなのに」サンタさんは困ってしまいました。これだとプレゼントは届けられません。

「ドウサレタンデスカー」と変な高い声が聞こえてきました。モス…モス…と雪だるまのモスくんが来ました。

「オオキイコエガシタカラー」

「ごめんねモスくん。実は…」とサンタさんは今まであったことをモスくんに話しました。

「ソウデスネ。ジャアボクノデバンカナー。」モスくんは突然なにかの呪文をとねえました。

「モスモス～モスモス～クツシタと～クツに～変身～シロ!!」そうとなえるとモスくとサンタさんの周りがキラキラしはじめました。するとモスくんのマフラーが靴下に、ニンジンの鼻が靴に変身しました。

「すごいな! モスくん! ありがとう～!」これでプレゼントが届けられると思ったサンタさんでしたが、

「バキ!! バキバキバキキ…!」なんということでしょう、はしゃいでたら靴がバキバキに崩れてしまいました。ニンジンだからしょうがないですね。「うわあ～!! どうしよう!!」

「アーコワレチャッタヨ」

「モスくん、どうにかもう一足は作れないのかい?」

「ゴメンナサイネ。ボク、ニンジンとマフラーシカ変身ナラナイヨ」サンタさんもモスくんもお手上げです。

「はあ… お願いだよ プレゼントを届けさせてくれ。その時だけでいいから靴を…」

キラーン!! サンタさんがそう願っていると空から一つの星が落ちてきました。

大きな星です。

「なんで星が落ちてきたんだ?」

「私達聞いたことがあるよ」雪だるまの双子がいいました。

「なんでも一つお願い事を叶えてくれるって」

「そんなすごいことが!! どうしようか…」

あっ」

サンタさんお願い事がありましたね。

「せーの、プレゼントを届けるときだけ片っぱの靴になってください！！」

サンタさんがそうお願いすると星はキラキラと輝きはじめ、金ぴかの靴に変身しました。すぐく丈夫そうです。

「やった～！！これでプレゼントを届けられるぞ！！」

「やったやったー！！」

「ヤッタネサンタサン」みんな喜びです。

「よしっ、そうときまればプレゼントをみんなに届けにいくぞ！！モスクンの靴下もあったかいし大丈夫！！」そうってサンタさんはトナカイと一緒にみんなの元へプレゼントを届けに行きました。ある子はお空にトナカイとキラキラのお星様がみえたみたいです。

次の日、サンタサンはモスクンと一緒に燃えなくて丈夫な靴を作りました。次のクリスマスは大丈夫だね。

おしまい。

創作文（学生G）



【題名：赤いマフラーとサンタクロース】

ある山奥に明りのともった家がありました。この家には小さな男の子が住んでいます。そして今日はクリスマスです。男の子はサンタサンに「サンタへ、赤色のかっこいい靴がほしいです。」とお手紙を書いて靴のプレゼントをお願いしました。男の子は今か今かとそわそわしながら待っています。その頃サンタさんは、子ども

も達にプレゼントを届けるためにおおいそがしです。今月中に届けないといけないプレゼントが沢山あります。

子ども達が寝た頃にサンタさんはどんどんプレゼントを届けに行きます。そして最後の男の子のプレゼントだけになりました。男の子の家に向かっている途中に大きな穴に落ちてしまいました。サンタさんは「たすけて～」と叫んでも、山の中なので誰もいません。サンタさんはがんばって登り、穴からでることができました。ですが、登っている時に靴が脱げて無くなってしまいました。

「どうしよう。靴がないとプレゼントを届けに行けないよ。」と困っていると、どこからか音が聞こえてきて、目の前に赤いマフラーを付けた雪だるまが現われました。サンタさんは、雪だるまに「靴がなくて困っているの。助けて！」と言いました。そしたら、なんと雪だるまが魔法の呪文を唱えると、赤いマフラーが靴に変身しました。サンタはもらった靴を履いて、雪だるまにお礼を言うと再びプレゼントを届けに行きました。

だんだん日が明るくなってしまいました。

「急がないと！」このままだと間に合いません。サンタさんは走りました。なんとか男の子の家に着き、そーっと入り、クリスマスツリーの下にプレゼントを置き任務完了しました。サンタさんは安心して「ふうー」と息をはきました。雪だるまがくれた靴。おかげで今年も子ども達にプレゼントを無事全員に届けることができました。

IV. 考察

以上は、絵本や紙芝居の読み聞かせ活動の充実を目指して行われた、卒業研究計画前半部分の報告である。

学生たちには、メルヘンスケープ法を体験してもらった。学生たちは、呈示されるパーツを使い、授業者から呈示される発問によって物語をつくった。その中で、学生たちが状況対応力と発想力を

広げることに期待した。スケープづくりと発問から、自らの発想を広げることを学生たちは行っている。当然ではあるが創作された物語には、学生たちが自ら行った解釈と意見の共有から得られた解釈が混在して現われる。それぞれの学生によって、自らの解釈と共有された解釈の占める割合は異なる。

例えば、学生Aは学生Bの「マフラーをお守り」にするというアイデアを問題解決方法としてお話に組み込んでいた（学生Aの創作文内下線部）。

学生Bは他の学生たちの「魔法」を使うというアイデアに対し「まほうを使っていくのがおもしろい。」（表3）と記述していた。そのアイデアと自身の「雪だるまさんパワー」（表3）というアイデアを組み合わせ「サンタさんにまほうをかけました。ゆきちゃんのパワーで、サンタさんの新しいくつができました。」（学生Bの創作文内下線部）と表現していた。

学生Cははじめからサンタクロースが「おっちょこちょい」であるという設定をしていた（表2及び学生Cの創作文内下線部）。そのアイデアをタイトルにも内容にも反映している。また、学生Cは学生Aの「プレゼントをこっそり届けに行くことが出来るか」と学生Bの「子どもにバレちゃったらどうしよう困っていて」（表2）というアイデアを「バレたらどうしよう」「こっそり、プレゼントを届けに行けるかな」というように共有内容のメモに記載していた。学生Cの創作文には、「こっそり届ける」という文言は使用されていない。しかし、「子どもたちは目を覚ましてプレゼントが家にあって大喜び」の記述からも、共有された「こっそり」の気持ちが内包されていると考えられる。

学生Dは「靴をはかなくても足が冷たくならないように魔法をかけた」という解決方法を自ら発想していた（表3）。その発想を創作文に生かしている（学生Dの創作文内下線部）。表3では他の学生のアイデアも共有内容として記載していたが、自身のアイデアを優先して物語を完成させている。

学生Eは、サンタクロースが困っている理由について、他の学生との共有内容が未記入であった（表2）。自身で考えた段階で「サンタの片方の靴が脱げてしまう。でもトナカイはとまらず世界をかけ回るので、サンタは片方の足がつめたすぎて、歩けなくて困っている。」（創作文内下線部）と、すでにある程度ストーリー展開が決まっていた可能性がある。表1においても共有内容が未記入であった。雪だるまが「キラキラ魔法を使って金ぴかのくつをつくってあげ」というアイデアも自身の発想によるものである（創作文内及び表3）。学生Eも自身のアイデアを優先して物語を完成させた事例といえるだろう。

学生Fは、自身の「ニンジン靴を、マフラーを靴下に」（表3内下線部⁹）及び創作文内下線部というアイデアを存分に生かした創作文を仕上げていた。しかし、創作文のはじめで「片方の靴が池の中にはまってしまいました。」→「『たき火の近くで乾かせばいいんじゃない？』」→「さっそくサンタさんは木の枝とマッチを使ってたき火を作りました。」という記述がある。これは学生D・学生Gがスケープのあたたかなイメージから「たき火」を想起したことに由来するかもしれない（表1）。学生Dと学生Gは表2でも「たき火」からアイデアを膨らませている。学生Fは自身のメモにはこのような学生D・Gのアイデアを記載していないが、創作文には活用している。

そして学生Gは、援助者の解決方法として「何でも変身できる雪だるまが靴になってくれる。」（表3内下線部¹⁰）というアイデアを自ら記載していた。しかし、完成した創作文では「雪だるまが靴に」になったのではなく「赤いマフラーが靴に」になっている（学生Gの創作文内下線部）。学生Gの創作文は、他者の共有メモは直接反映されず、自身のアイデアを改変しながら構成された例となっている。

以上のように学生たちはどの場面においても、自らの解釈と共有された解釈を巧みに取捨選択し、物語づくりを行っていた。メルヘンスケープ法は、物語づくりに学習者を自然に引き込み、共有内容

を取捨選択することを誘発する。その結果、学生たちは他者の発想を参考にしつつも、自らの独自性を発揮したお話をつくっていた。私見を述べるようだが、学生たちの創作文はどれもユニークであり、多様な発想を共有することで個人の発想をより魅力的なものに昇華させたのではないかと考えられる。

メルヘンスケープ法による物語づくりは、学生たち自らの見る力・感じる力を向上させた。そして、自ら考えたストーリーと共有したストーリーを取捨選択し物語づくりを経験することができた。これらはひいては、子どもを見る力・感じる力の育成にも大きく寄与するものと期待できる。

次稿では、メルヘンスケープ法を体験した学生たちが、子どもに対して紙芝居活動を行った様子について報告する。メルヘンスケープ法の体験で学生たちは、物語づくりを行う立場であった。しかし、今度は子どもたちの物語づくりを促す立場となる。報告では、学生たちが作成した紙芝居、子どもに物語づくりを促す工夫や仕掛け、及び、子どもたちの積極的な反応について詳細を述べる予定である。

引用・参考文献

- 中央教育審議会初等中等教育分科会 2020 「中教審答申案の作成に向けた骨子(案)」 pp.12-13
https://www.mext.go.jp/kaigisiryō/content/20200820-mxt_syoto02-000009367_4-2.pdf
 (2026.7.3 閲覧)
- 浜名真以・上田よう子 2023 「保育学生における絵本に関する知識および経験と教育実習Ⅰ(幼稚園)における読み聞かせ実践:『保育内容(言葉)』への活用に向けて」『洗足論叢』 第51号 pp.201-211
- 小林哲生 2023 「個別最適化した絵本の作成と推薦による 絵本の読み聞かせ支援」『電子情報通信学会 通信ソサイエティマガジン』 16(4) pp.312-319

- 厚生労働省 2017 『保育所保育指針』 フレーベル館
- 文部科学省 2017 『幼稚園教育要領』 フレーベル館
- 文部科学省 2021 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」
https://www.mext.go.jp/content/210330-mxt_kyoiku01-000013731_09.pdf
 (2026.6.6 閲覧)
- 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館
- 貞松成 2023 「博士論文 保育の個別最適化研究ー子どもの発達と個人差と興味・関心の個別性に対する関わりー」 大阪総合保育大学院 大学 甲 29 号
- 鹿内信善 2010 『看図作文指導要領ー「みる」ことを「書く」ことにつなげるレッスンー』 溪水社
- 鹿内信善 2014 『見ることを楽しみ書くことを学ぶ 協同学習の新しいかたち・看図作文レパートリー・』 ナカニシヤ出版
- 渡辺聡 2022 「看図アプローチを取り入れた保育士養成のための授業研究(Ⅱ)ーメルヘンスケープ法を活用した書く力を育てる『基礎演習』授業ー」『全国看図アプローチ研究会研究誌』 12 号 pp.25-50
- 矢崎さやか・中村明美・渡邊真美・久米裕紀子 2026 「保育士・幼稚園教諭及び特別支援学校教諭の模擬読み聞かせの分析ー保育・教育場面での絵本の活用ー」『武庫川女子大学学校教育センター紀要』 11 号 pp.180-190

注

本研究で活用しているメルヘンスケープ法教材(PDF データ) 及びスライドは、全国看図アプローチ研究会会員には無償提供できます。活用を希望される方は kanzu-mail@kanzu-approach.com ま

でメールいただくか、当会 HP の下記お問い合わせフォームよりご連絡ください。

[https://kanzu-approach.com/script/
mailform/kanzu-mail/](https://kanzu-approach.com/script/mailform/kanzu-mail/)

謝 辞

本卒業研究を実施するにあたり、全国看図アプローチ研究会会長鹿内信善先生、研究会専属アートスタッフ石田ゆき先生からは、メルヘンスケープ法の活用と使用教材及び紙芝居に活用した図版の使用と工夫した活用のお許しを頂きました。また、本稿の発表方法と内容について温かなご指導ご支援を賜りました。誠にありがとうございました。

そして、この卒業研究に積極的に取り組んだ、石垣愛梨さん（東谷学園天童しぜん幼稚園）・奥山彩菜さん（美仙会さがえさくらんぼ子供園）・海野天音さん（済生会はやぶさ保育園）・竹田果奈さん（さくらんぼ保育園）には、最大限の拍手と賞賛を送りたいと思います。今でも忘れられないのは、卒論発表会においてフロアーから「子どもたちへの活動に何か成果はありましたか？」という少し乱暴な質問があった際、自信をもって「ありました！」と即答した皆さんの姿勢です。質問者は気迫に押されたのかすぐ納得して、追加質問で内容を掘り下げる場面がなかったのが拍子抜けでした。しかし、もしあったとしてもみなさんは、自信をもって成果をお話ししていたことでしょう。皆さんの取組内容については、次報で報告致します。

2026 年 7 月 7 日 受付

2026 年 7 月 18 日 受理